

# さめき水田営農だより

## ～農業者・JAが主役となる需給調整に向けて～

平成22年産米についても、目標面積どおりの作付けをお願いします

香川県の22年産米の生産数量目標は、国から、前年産より150ト減(30ha減)の76,490ト(15,330ha)が示されました。

市町別の22年産米の生産数量目標は、21年産米の作付実績を基本とし、地域水田農業推進協議会から報告のあった22年産米の作付意向に応じて加算して設定しました。

2月下旬から、随時、農業者の方に生産数量目標(目標面積)が配分されますが、配分された目標面積どおりの作付けにご協力をお願いします。

一筆からでも

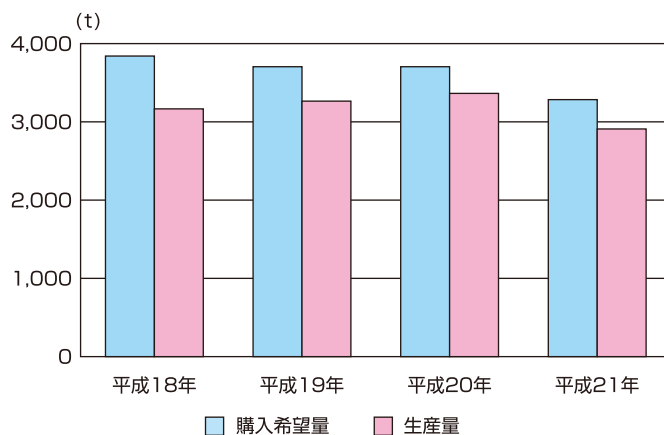
## 「オオセト」の作付拡大をお願いします!!

「オオセト」は、酒造用の麴米やかけ米として優れ、関西や県内の酒造メーカーから非常に望まれている品種です。

しかし、種々の要因により、県内の栽培面積や生産量が年々減少しているため、このままでは酒造メーカーからの要望が途絶えるかもしれない状況になっています。

### 「オオセト」栽培のメリット

- 「オオセト」は県内外の酒造メーカーから高い評価を受けています。
- 全国で「オオセト」を作っているのは、香川県だけです。
- 酒造メーカーは「オオセトが欲しい!!」のに、手に入らない状況が続いています。
- 「オオセト」は他の品種に比べて価格が安定しており、売れ残る心配はありません。
- 適正な施肥や水管理を行えば、収量は確保できます!!



「オオセト」の生産量の推移

今後も価格を維持し、酒造メーカーとの良いお付き合いを続けるために、作付拡大が必要です。

### 県内栽培目標

670ha (H21産) → 800ha (H22産)

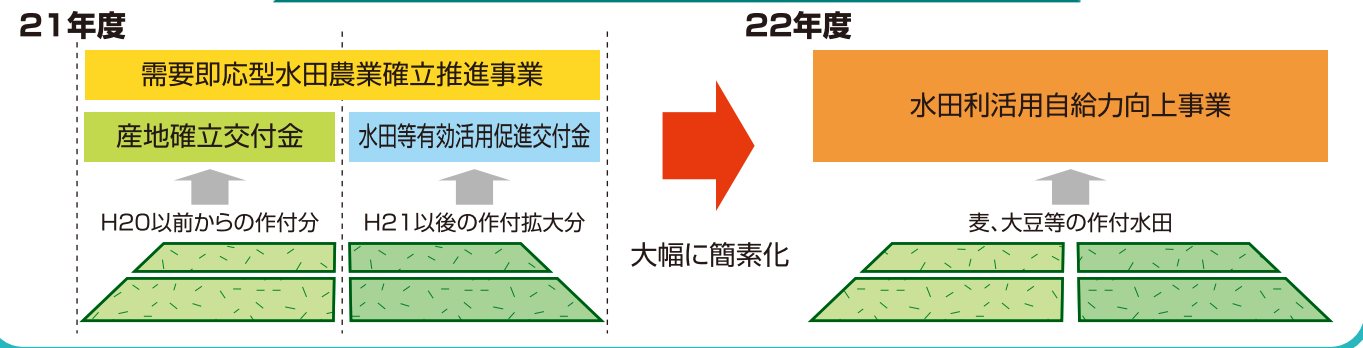
興味のある方は、JAに是非ご相談ください。

# 平成22年度戸別所得補償制度モデル対策～自給率向上対策～

## ① 水田利活用自給力向上事業の概要

- 水田を有効活用して麦、大豆、米粉・飼料用米等の生産を行う販売農家に、主食用米並みの所得を確保できる水準が国から直接、支払われます。

### 交付金体系の見直し(イメージ)



### 事業の仕組み

#### ① 交付金単価

国が想定している交付単価は以下のとおりですが、20年度交付実績等により、県単位で調整します。

作物	単価 (10a当たり)
戦略作物 麦、大豆、飼料作物	35,000円
新規需要米(米粉用・飼料用・バイオ燃料用米・WCS用稲)	80,000円
そば、なたね、加工用米	20,000円
その他作物(都道府県単位で単価設定可能)	10,000円
二毛作助成(主食用米と戦略作物又は戦略作物同士の組合せのみ)	15,000円

主食用米の作付がない水田での交付単価

※1 制度変更に伴い交付額が減少する地域に対しては、激変緩和措置が実施されます。  
 ※2 戦略作物の組み合わせによる二毛作の助成は、上記の交付単価を比較して、いずれか高い単価+15,000円(10a当たり)の交付となります。

#### ② 交付要件

捨て作りを防止し、需要に応じた生産を促進するため、需要者との出荷契約等を確認します。

### 今回の対策の6つのポイント

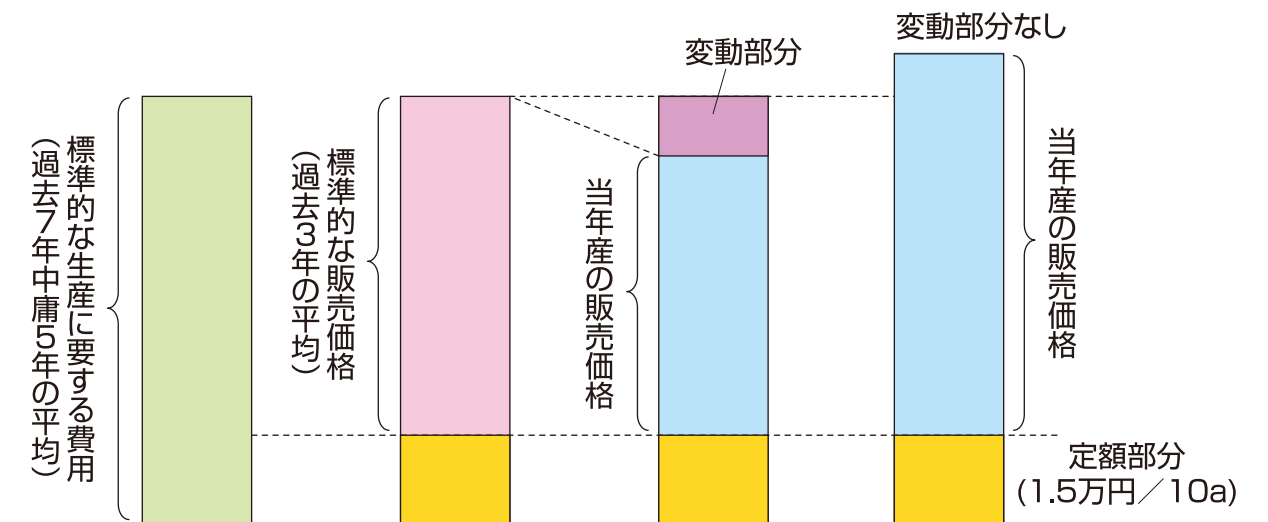
- ①これまで需給調整に参加してこなかった農家が参加しやすくなるよう、生産数量目標の達成に関わらず助成対象。
- ②作付拡大に対応できるよう、作付面積の実績に応じて、県単位で調整した単価で交付。
- ③その他作物に対する交付は、単価(10,000円/10a)に基づく支援枠を設け、地域の実情に応じて柔軟に交付対象作物・単価を設定できる。
- ④水田の自給力の向上のため、二毛作助成(戦略作物15,000円/10a)を実施。
- ⑤現行に比べて交付額が減少する地域の影響を緩和するため、交付単価の加算ができる激変緩和措置を講じる。
- ⑥麦、大豆については水田経営所得安定対策に基づく生産条件不利補正交付金(ゲタ交付金)を引き続き交付(21年度の全国平均で小麦約40,000円、大豆約27,000円)。

## ② 米戸別所得補償モデル事業の概要

- 意欲ある農家が水田農業を継続できる環境を整えることを目的に、恒常的に生産に要する費用が販売価格を上回る米に対して、所得補償が国からの直接支払いにより行われます。

### 事業の仕組み

定額部分	10a当たり1万5千円(全国统一単価)
変動部分	当年産の販売価格が標準的な販売価格(過去3年平均)を下回った場合、その差額を基に変動部分の交付単価を算定



- 交付対象者 米の「生産数量目標」に即した生産を行った販売農家・集落営農のうち、水稻共済加入者又は前年度の出荷・販売実績のあるもの。

- 交付対象面積 主食用米の作付面積から一律10a控除して算定。

### 今回の対策の5つのポイント

- ①生産数量目標に即した生産者に対するメリット措置。
- ②地域協議会などを経由せず、国から直接交付金が支払われる。
- ③米価変動に対応し、補償対象の米価水準まで所得を補償する、いわゆる「岩盤対策」。
- ④要件の確認などは、市町や地域協議会が香川農政事務所等の関係機関と連携して実施。
- ⑤水田利活用自給力向上事業とセットで措置することで食料自給率の向上を実現。

# 麦類の追肥の準備を始めましょう

2月は麦類の追肥時期です。  
肥料切れで葉が黄色くなっていませんか？  
まずは麦類の生育状況を把握し、  
適期に追肥作業ができるように排水対策を  
しておきましょう。

	標準的な追肥時期
イチバンボシ	2月下旬～3月初旬
さめきの夢2000	2月上旬～3月初旬

## 肥料切れしている場合は早期追肥を!

早く播種した場合、「肥料切れ」による葉の黄化や退色がすでに始まっているかもしれません。

標準的な追肥時期まで待たず、下図を参考に追肥を実施してください。



はだか麦の黄化始め



小麦の退色始め

### 追肥の目安(砂質～壤質田の場合)

播種時期	生育状況 (2月初旬)	施肥時期と麦用肥料の施用量の目安 (10a当たり)
イチバンボシ	11月中～下旬	黄化がみられる → 2回に分けて施肥 (早急に10kg+2月下旬に10kg)
	11月中～下旬	平年並(本葉6～7枚) 又は生育が遅れている → 標準施肥 (2月下旬～3月初旬に20kg)
	12月	生育が遅れ、 分けつも少ない → 減肥 (3～4葉期に10～15kg)
さめきの夢2000	11月上旬	肥切れがみられる → 早期追肥 (2月上旬までに20kg)
	11月中～下旬	葉色が淡くなって きている → 少し早めに追肥 (2月上旬～中旬に20kg)
	11月中～下旬	平年並(本葉6～7枚) 又は生育が遅れている → 標準 (2月上旬～3月初旬に20kg)
12月	生育が遅れ、 分けつも少ない → 3～4葉期に10～15kg (過剰施肥は熟期が遅れるので注意)	

(原則として基肥一発施肥体系の場合は追肥をしません)

※麦用肥料は地域によって推奨されている肥料が異なります。  
(朝日BB402、硫加燐安402など)

※湿害で生育が悪い場合は、施肥時期の範囲内で、早めに追肥しましょう。

●内容に関するお問い合わせ先／

香川県農協中央会指導部指導課  
香川県農政水産部農業生産流通課

TEL：087-825-2503  
TEL：087-832-3418